



身近になったけれど

校長 佐々木 秀之

校庭、校舎に子供たちの元気のいい爽やかな声が戻ってきました。42日間の夏休みが明け、今日から2学期がスタートします。子供たちにとって3年ぶりに行動制限のなかった夏休みは、学期中にはできないかけがえのない多くの体験ができたと同時に、好きなこととことん取り組んだり、今まで学習した内容を学び直したりするなど、得意なことを大いに伸ばすことができた夏休みだったことと思います。

*

さて、最近「ChatGPT」など高度なAI技術によって人間のように自然な会話ができるAIチャットサービスが話題となっています。公開されてまだ一年もたっていませんが、今、全世界で注目され、どう対応すべきか議論が行われています。企業や自治体等では「積極的に活用すべき」という意見がある一方、個人情報への流出、著作権侵害などのリスクがあることから、大きなトラブルに巻き込まれる恐れがあることも指摘されています。文部科学省も7月4日に生成AIを小中学校で活用する際の考え方をまとめた暫定的なガイドラインを公開しました。

スマホやパソコンは私たちの生活になくてはならない物になりましたが、子供たちにとっても非常に身近な物となっています。AIチャットサービスを利用せずとも、スマホやパソコンで検索したりクリックしたりすると、AIは履歴を学習し、その人の思考や趣向に合った情報が多く出てくるようになります。知りたい情報が勝手に入ってくるのは便利なようですが、自分に関心のない情報からは遠ざかり、「好きなことばかりのバブル(泡)」の中に埋もれてしまう可能性もあります。

今後、AIがもっと優秀なAIを作り…といった具合に爆発的なスピードで進化させ、人間の頭脳レベルではもはや予測解読不可能な未来が訪れる。およそ想像もつかない映画のような世界ですが、確かにそう遠くない未来には、劇的に世の中が変わっているのかもしれませんが。人間が人間らしく生きていられる世の中ならいいのですが……。

*

子供たちは行動制限のない夏休みに、様々な体験をしたり、新しい世界に出会ったりしたことと思います。知らなかった世界に出会うことで、自分の中に眠っている才能や興味が一気に広がったかもしれません。

「先生、夏休みの間にこんなことができるようになりました。」「先生、虫を観察したらこんなことが分かりました。」「先生、こんな絵を描きました。」という子供たちの言葉に、「すごいね、見せて。」「ほんと？教えてくれる?」「上手だね、友達にも教えてあげて。」と少し大げさと思えるくらい素直に認め、本当の喜びや幸せを感じることができるよう夏休み明けのスタートを切りたいと考えています。